DS CSR通信

東日本大震災復興支援ボランティア 海岸林再生プロジェクト

失われた白砂青松は人の手でこそよみがえる

第一三共グループは、東日本大震災の長期復興支援策である、宮城県名取市での海岸林の再生プロジェクト*の趣旨に賛同し、2014年から社員ボランティアを派遣し続けています。今回、その活動の様子をお伝えします。

*海岸林再生プロジェクト：2011年に発足し、2020年までに約50万本以上の植林と育林を行うことによって、津波で失われた海岸林（約100ha）の復活をめざしている。（http://www.oisca.org/kaiganrin/）

ボランティア活動にかける想い

2018年10月6日。この時期としては例年になく強い日差しが降り注ぐ宮城県名取市の海岸に大粒の汗が光っていました。在りし日の海岸林をよみがえらせたい――。その想いに共感した100人を超えるボランティアたちが集まり、植樹されたばかりのクロマツの世話に精を出していました。公益財団法人オイスカが、2011年3月、東日本大震災直後から発足させた「海岸林再生プロジェクト」。津波によって失われたクロマツ林を全長5km、幅200m（約100ha）に渡って再生させるために、年間を通した活動が行われており、春から秋にかけて毎月のようにボランティアを受け入れています。第一三共は、2012年から資金援助をはじめ、2014年からは企業団体として毎年ボランティアを派遣。2018年の第4回目となる今回10月は19人が参加しました。

時季により作業内容は異なりますが、この日の作業は、背丈がまだ60cmほどしかない若いクロマツを一本一本見て回り、クロマツに巻きついて成長を阻害する「ツルマメ」と呼ばれる植物を除草していきました。また、9月の台風によって大きく傾いたクロマツは、根元を土の上から踏みつける「根踏み」という作業で、まっすぐ育つよう傾きを直していきます。作業をしたのは全長1.2km、幅100mほどの区間。単純作業ながらも多くの人の手を要する作業です。クロマツ林を育てていくためには、こうしたボランティアの手を必要とする大規模な作業が年間で何度も発生します。ボランティアの中には、来るほどにやりがいを感じ、リピーターとなっている方も多いといいます。第一三共ではこれまで年に一度、30人程度の派遣を続けてきましたが、毎年参加枠を上回るほどの応募があったため、今年から年に4回、1回当たり20人前後の募集に切り替え、約3倍の人員を派遣しています。ボランティア同士の交流が生まれたり、復興していく被災地への貢献を感じられたりと、企業としてのCSR活動のみならず、個人として得られる経験も価値あるものです。

当初は10ヵ年計画で始まったプロジェクトも終盤を迎えつつありますが、植樹したクロマツを確実に活着（根付き、生長）させ、地元住民の手にゆだねるまでには、さらに15年以上の時間を要すると見込まれています。美しい白砂青松をよみがえらせるために、まだまだ多くのボランティアの力が必要です。

主な活動の様子（2018年）

育苗場見学（育苗方法やクロマツの特徴について学ぶ）

鎌を用いたつぼ刈り（雑草は風除けにもなるため、刈り過ぎに注意しながらの作業）

ツルマメの除草（クロマツに絡んだツルマメの根を探すのにひと苦労）

溝切り（クロマツの根元に溜まった雨水の排水路を掘る作業でかなりの重労働）

参加者の声

会社の公募が背中を押してくれた

私は仙台出身で、東日本大震災があったときも、地元の大学に在籍していました。親戚がこの海岸の近くに住んでいたため、当時様子を見にきたことがありましたが、その時の惨状は目に焼き付いています。それ以降、復興に携わる機会を逸していましたが、会社からの募集を目にし、一念発起をして参加しました。今回が2回目の参加ですが、クロマツの成長を見て喜びを感じるとともに、多くの社員の皆さんが、自分の地元のために活動してくださっていることに感謝しています。

沼田 喜弘さん
Yoshihiro Numata

第一三共プロファーマ株式会社
技術部
治験薬分析グループ

ボランティアを通じて社会との関わりをいつまでも

このプロジェクトには初めて参加しました。海岸林の再生には多くの困難があることを学ぶことができ、とても有意義な経験でした。ボランティアを始めたきっかけは、この先定年してからも社会と関わりを持ち、貢献していく手段として、価値あるものだと感じたためです。小さな苗木が白砂青松になるまでの成長を見守りながら、またこのプロジェクトにも参加したいと思います。

高山 知子さん
Tomoko Takayama

第一三共RDノバーレ株式会社
生物評価研究部
蛋白質発現グループ

NGOからのメッセージ

吉田 俊通さん
Toshimichi Yoshida

公益財団法人オイスカ
啓発普及部
海岸再生プロジェクト担当部長

1994年からオイスカに勤務。2007年から2年間、林業会社に勤務し伐採などの実務に従事。2009年オイスカに復職し、東日本大震災後に海岸林再生プロジェクトの担当。

“微力”が集まり大きな力に

私たちは民間からの寄付金で、このプロジェクトを遂行するNGOです。そのためボランティアの協力は欠かせません。第一三共さんの参加は、CSR部の方が取りまとめや伝達のサポートをしていただけるので、本当にありがたく助かっています。

私たちは長年農業・林業を通した人づくりをモットーとして活動してきました。プロジェクトへの参加は、植樹した木を守り育てることの難しさを学んでいただけるよい機会だと考えています。“微力ながら”という言葉がありますが、「微力があつまれば大きな力になる」。これからも地元の皆さんとのバランスの取れた協業を目指していきます。

CSR部 社会貢献担当からのメッセージ

東日本大震災以前より第一三共グループとして社会貢献活動基本方針に基づく、災害復興および環境側面からの生物多様性回復に対する支援活動を検討していました。当活動は、要件としての①継続的に被災地支援ができる、②社員が積極的に活動に参加できる、③協働に賛同できる、④環境保全に貢献できる、に合致し、公益財団法人オイスカと取り組むこととしました。

この活動は継続的な支援が必要です。今後も皆さんのボランティアへの積極的な参加をお待ちしています！！

第一三共株式会社 総務本部 CSR部 左から
髙橋 佳菜子(Kanako Takahashi)さん、
渡部 修(Osamu Watanabe)さん、山本 潤(Jun Yamamoto)さん